

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課: 道路局 国道・技術課

担当課長名: 西川 昌宏

事業名	一般国道 12号 峰延道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自: 北海道岩見沢市岡山町 至: 北海道美唄市進徳町			延長	6.3km

事業概要

一般国道 12号は、札幌市を起点とし、旭川市に至る幹線道路である。

峰延道路は、札幌～滝川間における唯一の2車線区間で、岩見沢～美唄間の交通混雑緩和及び交通事故減少による、走行の定時性及び安全性の向上を目的とした延長 6.3km の4車線拡幅事業である。

H19年度事業化	—	H20年度用地補償着手	H23年度工事着手
全体事業費	約226億円	事業進捗率 (令和7年3月末時点)	約86% 供用済延長 2.1km
計画交通量	23,400～24,900台／日		

費用 対 効 果 分 析	B/C (事業全体) 0.8 参考 1.1 [2%] 1.4 [1%]	EIIRR (事業全体) 3.0%	感 度 分 析	総費用 (残事業)/(事業全体) 68/279億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 163/229億円	基準年 令和7年
				事業費: 56/259億円 維持管理費: 12/20億円 更新費: 一/一億円	走行時間短縮便益: 156/208億円 走行経費減少便益: 5.3/15億円 交通事故減少便益: 1.9/6.1億円	
	(残事業) 2.4 参考 3.3 [2%] 4.0 [1%]	(残事業) 10.4%		(事業全体)	(残事業)	
			交通量	B/C= 0.7～0.9(±10%)	交通量	B/C= 2.2～2.6(±10%)
			事業費	B/C= 0.8～0.8(±10%)	事業費	B/C= 2.2～2.6(±10%)
			事業期間	B/C= 0.8～0.8(±20%)	事業期間	B/C= 2.4～2.5(±20%)

事業の効果等

事業の必要性及び効果

- ① 交通混雑の緩和
 - ・交通容量が拡大し、混雑が緩和され、走行環境改善が期待される。
- ② 冬期異常気象時の走行性確保
 - ・交通容量が増加し、異常気象時における幹線道路としての機能確保が期待される。
- ③ 道路交通の安全性向上
 - ・道路交通の安全性向上が期待される。
- ④ 救急搬送の安定性向上
 - ・追越し困難な2車線区間が解消され、通年の救急搬送の安定性向上が期待される。
- ⑤ 日常生活の利便性向上
 - ・交通混雑が解消され、日常生活の利便性向上が期待される。
- ⑥ 農産品の流通利便性向上
 - ・交通混雑の解消や安全性が向上し、農産品の流通の利便性向上が期待される。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

岩見沢市を始めとする10市14町の首長等で構成される「北海道空知地方総合開発期成会」から早期整備の要望を受けている。

知事の意見：

「一般国道12号 峰延道路」事業を「継続」とした「対応方針（原案）」案について、異議はありません。

当該事業は、現道の4車線化による市街地の周辺における交通混雑及び交通事故の低減が図られ、道路交通の定時性や安全性の向上が期待されるなど、経済・社会活動の活性化や道民の安全・安心なくらしの確保に寄与することから、早期供用をお願いいたします。

なお、事業の実施に当たっては、周辺環境への影響を最小限にとどめるとともに、より一層の徹底したコスト縮減を図り、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成23年12月 国道12号 美唄拡幅全線開通
- ・平成25年3月 深川・留萌自動車道 留萌幌糠IC～留萌大和田IC開通
- ・平成27年8月 北海道縦貫自動車道 砂川SAスマートIC開通
- ・平成28年1月 一般国道12号 峰延道路部分4車線開通
- ・令和元年5月 「炭鉄港」が日本遺産に認定
- ・令和元年11月 一般国道12号 峰延道路部分4車線開通
- ・令和2年3月 道央圏連絡道路 泉郷道路 全線開通
- ・令和2年3月 深川・留萌自動車道 留萌大和田IC～留萌IC開通
- ・令和3年5月 一般国道12号 峰延道路部分4車線開通
- ・令和6年12月 シニックバイウェイ北海道「空知シニックバイウェイ-体感未来道-」指定
- ・令和7年3月 道央圏連絡道路 中樹林道路 全線開通

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成23年度に工事着手して、用地進捗率約99%、事業進捗率約86%となっている。

(令和7年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

工線橋架替の進捗を図り、引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

引き続き、コスト縮減に取り組んでいく。

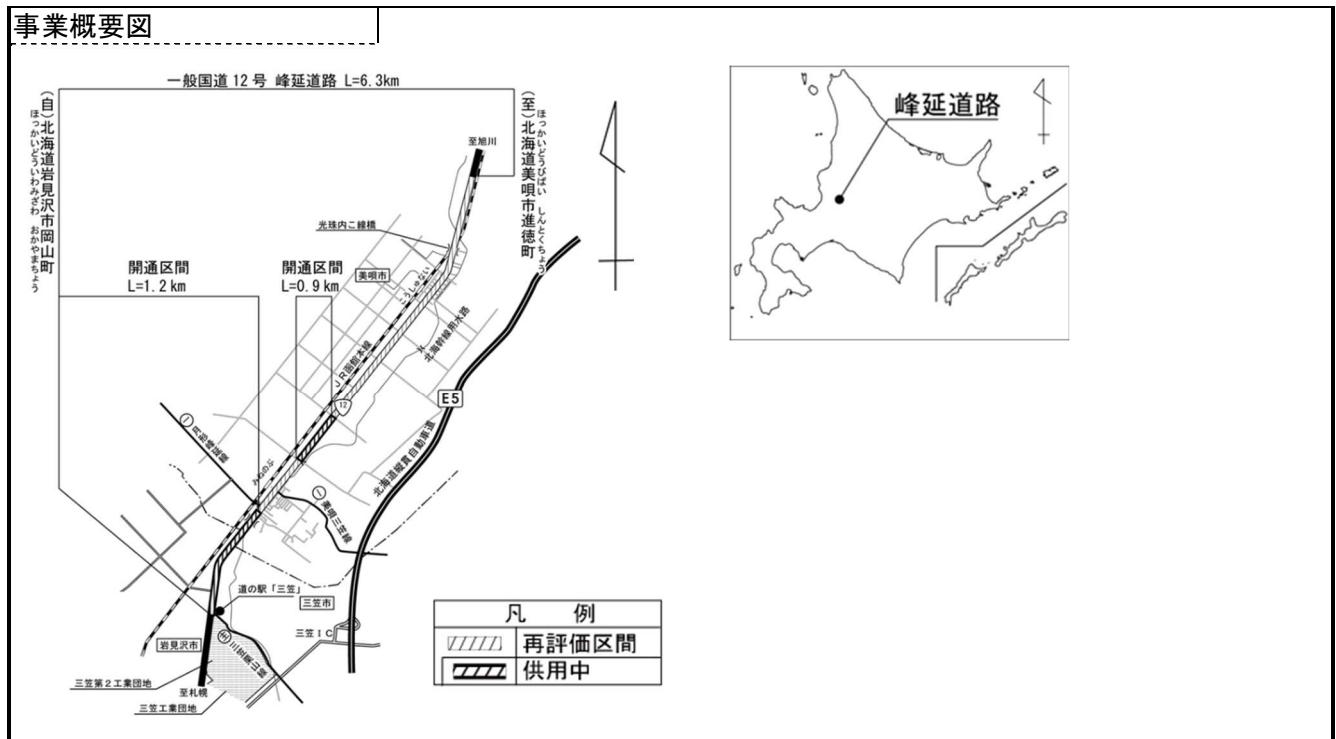
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。([]内は社会的割引率の値)